

第59回優秀畜産技術者表彰受賞者業績概要

(五十音順/敬称略)

大 澤 玲	埼玉県農業技術研究センター 酪農担当部長 乳牛の飼養管理、飼料作物の生産から給与まで、生産性・繁殖性・健全性の向上を目的とした研究に取り組み、酪農技術の向上に貢献した。初産牛の栄養水準については日本飼養標準にも引用されており、飼料関連では、良質な飼料用米サイレージの新たな調製方法で特許を取得している。
尾 花 尚 明	独立行政法人家畜改良センター 鳥取牧場 業務課 係長 輸出重点品目である和牛肉について、外国人を対象とした嗜好調査により、国や地域により嗜好性や風味の感じ方に違いがあることを明らかにした。また、わが国で広く用いられている2つの牛脂肪質の評価法について、測定値の乖離原因を特定し、その対策を示した。これらの業績は、和牛肉の輸出拡大や肉用牛の脂肪質の育種改良、ブランディングに多大な貢献を果たした。
小 松 智 彦	山形県農業総合研究センター 畜産研究所 家畜改良部 主任専門研究員 黒毛和種牛肉の食味に重要な成分を複数特定し、その成果をふまえ、全国に先駆けて食味重視の新規種雄牛「福福照」号を選抜した。当該牛の凍結精液は山形県内農家に広く供給された。さらに、食味成分の分析結果を枝肉市場で「見える化」し、同県内農家に成分値をフィードバックすることで、生産技術のさらなる向上を図った。
鈴 木 雅 大	愛知県農業総合試験場 畜産研究部 養豚研究室 主任研究員 食品製造副産物等の養豚飼料利用に関する研究に取り組み、飼料としての利用促進と高品質な豚肉の生産技術確立に貢献した。また、種豚場において、愛知県が開発した種豚の維持・増殖及び農家への譲渡を行うとともに、豚受精卵採取や種雄豚の乗駕欲に関する研究を行い、優良な種豚の供給等に貢献した。
高 柳 晃 治	栃木県那須農業振興事務所 経営普及部 畜産課 主査 畜産酪農研究センター在籍時に「肉用牛へのアミノ酸バランス改善飼料の給与」及び「畜産経営における臭気低減対策評価方法の確立」の技術開発と普及に貢献した。また、普及指導員として、飼料用とうもろこしの単収の大幅減少を引き起こす、オオブタクサ等の強害雑草への対策の調査研究と防除手法の普及に尽力した。
林 武 司	福岡県農林業総合試験場 畜産部 研究員 凍結受精卵品質を向上させるため、凍結前後におけるミトコンドリアの細胞活性化機能の変化を調査し、受精卵をレスベラトロールで処理することで、融解後生存率が向上することを明らかにした。また、本知見を畜産現場で利用可能な受精卵凍結技術へ改良することで、受胎率の向上など胚移植技術の向上に貢献した。
前 田 高 弘	神奈川県畜産技術センター 企画指導部 普及指導課 副技幹 水分含量が高い食品残さを乳酸発酵させる発酵リキッド法を確立し、地域環境負荷低減と飼料のコスト低減技術を確立した。また、神奈川県養豚協会青年部とともに県内産豚肉の脂肪性状について長期にわたり調査を行い、生産者の目指す肉質改善効果が得られるよう、支援を継続してきた。
正 木 達 規	兵庫県立農林水産技術総合センター 畜産技術センター 家畜部 主任研究員 栄養管理面から但馬牛去勢牛の生理的な負荷の軽減、産肉性および枝肉脂肪のモノ不飽和脂肪酸割合の向上を検討し、その成果をマニュアルにまとめ、肥育現場への普及を行った。但馬牛去勢牛の産肉性および枝肉脂肪のモノ不飽和脂肪酸割合に及ぼす栄養管理の影響に関する研究で、筑波大より博士号を授与された(R5)。
山 形 広 輔	岩手県農業研究センター 畜産研究所 主査専門研究員 肉用牛のDNA研究に精通し、近年では岩手県内黒毛和種種雄牛における枝肉6形質の推定育種価とゲノム育種価について、中程度から高い正の相関があることを明らかとしたほか、牛肉の美味しさと関連がある一価不飽和脂肪酸(MUFA)の推定育種価とゲノム育種価の相関も高く、改良に有用であることを明らかにした。
渡 部 敢	北海道立総合研究機構 畜産試験場 肉牛研究部 肉牛グループ 研究主幹 豚・肉用牛の発酵床(バイオベッド)、ふん尿処理物の施用法、飼料作物におけるメドウフォックステイルやハルガヤの防除法等の研究に取り組み、家畜ふん尿処理利用及び雑草防除に関する技術の普及発展に貢献した。あわせて、技術支援や現地実証により、同機構の研究成果の普及に貢献した。

※所属及び役職は、審査・選考時のものとなっております。